

としょかんぽう

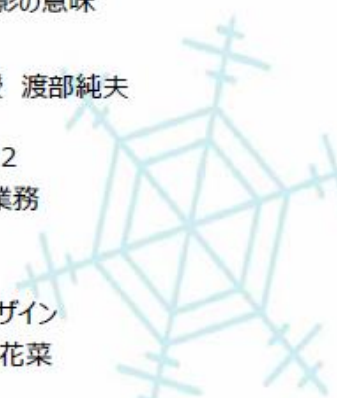
No.32

東北福祉大学図書館報
Tohoku Fukushi University Library News

TFUL News
2020 Dec

TFU*library

◇ Table of Contents ◇

- 
- 
- | | |
|--|-----|
| ❖ ブックレビュー | 1-2 |
| 自己の内面にある光と影の意味
総合福祉学部
福祉心理学科 教授 渡部純夫 | |
| ❖ 知ってる？ 非常事態編 2 | 3 |
| コロナ禍でのカウンター業務 | |
| ❖ わたしの本棚 | 4 |
| 日常に溶けこむ名品デザイン
美術工芸館 佐藤 花菜 | |
| ❖ HISTORY of TFU | 5 |
| 常盤大定と『明治佛教全集豫定目録』 | |
| ❖ 図書館エトセトラ | 6 |
| 素敵な日々を過ごす、公共図書館とわたし | |
| ❖ 編集後記 | 7 |
- 

ブック レビュー

ー 自己の内面にある光と影の意味 ー

総合福祉学部

福祉心理学科 教授 渡部純夫

【ゲド戦記】

ゲド戦記は、アメリカの女優作家ル＝グウィンによって書かれたファンタジー小説である。原題は「Earthsea」であり、世界 3 大ファンタジーの 1 つに数えられている。（ちなみに他の 2 つは『指輪物語』と『ナルニア国物語』である。）物語は 6 部構成になっており、それぞれ『影との戦い』『こわれた腕環』『さいはての島へ』『帰還—ゲド戦記最後の書—』『アースシーの風』『ゲド戦記外伝』として、物語が展開する。岩波少年文庫では中学生向けとなっているが、大人が読んででもはまること請け合いである。

【物語の簡単な紹介】

多島海アースシーは、セゴイというこの世で最初に言葉を話したとされるものによって、海中から持ち上げられて創られた島々である。そこで暮らすゲド（仮の幼少期の名をハイタカという）は、魔法使いの見習いであり、若さゆえの驕りから禁じられている魔法で死者の霊とともに「影」をも呼び出してしまふ。その結果、ゲドは形のないもの、名のないものや闇の王に脅かされながらの旅をしなければならない運命を引き受けることになる。「影との戦い」では、最後自分の影と向き合うことにより、影との統合をはかることになる。

【真（まこと）の名前とは】

この物語の主要なテーマはいくつかあるが、その中の「真の名前」と「影」について少し取り上げてみたい。「真の名前」は、心理学ではアイデンティティの概念と深く結びついており、特に思春期では「自分は何者か」という課題と向き合わなければならないことになる。「千と千尋の神隠し」でも、主人公の千尋は本当の自分の名前を見つけるための冒

険をする。「ゲド戦記」で、ゲドは真の名前における光と影の統合をはかることで、アイデンティティの意味を心に刻んだのである。

【影の存在とは】

「影」とは、人生において抑圧され続けてきた、自分の心のなかの闇そのものと考えられる。その闇にどのような光を投げかけるかは、その人の個性ということになる。ゲドが心の闇と対峙した場面を、小説から抜き出してみる。

「はじめのうちこそ、形をなしていなかったが、近づくにつれ、その影はしだいに人間の形をとりだした。(略)闇をすかしてゲドを見すえるその目には、憎しみがこもっていた。(略)両者の距離はほんの数メートルになった。(略)あわや、両者がぶつかろうとした時、それはあたりを照らす白い魔法の光の中でその色を漆黒に変え、いきなり、立ちあがった。人間と影とは声ひとつたてずに向かい合い、立ちつくした。一瞬ののち、太古の静寂を破って、ゲドが大声で、はっきりと影の名を語った。時を同じくして、影もまた、唇も舌もないというのに、まったく同じ名を語った。―「ゲド！」―

ふたつの声はひとつだった。ゲドは杖をとりおとして、両手をさしのべ、自分に向かってのびてきた己の影を、その黒い分身をしかと抱きしめた。光と闇とは出会い、溶けあって、ひとつになった。」

この瞬間こそが統合されたゲドそのものである。



『影との戦い ゲド戦記 1』

岩波書店

ル＝グウィン作 清水真砂子訳

所 在： 書 庫

請求記号： 933.7/ルク

知ってる？

非常 事態編 2

ー コロナ禍でのカウンター業務 ー

図書館のカウンター業務は貸出返却はもちろん、利用や資料に関する問合せへの対応、学外の図書館とのやり取り等、そのほとんどが利用者の皆さんと接しながら行うものです。しかしな

がら、新型コロナウイルス感染症の拡大により 4 月から図書館も臨時休館を余儀なくされ、カウンターで皆さんと接する業務を行うこともできなくなりました。

感染症が原因での休館は図書館の誰もが経験したことの無い事態であり、どのようにサービスを展開していくのか考えるのはとても難しい問題でした。

そのような中で 4 月～6 月はオンライン授業の資料作成のために教職員の来館利用を再開し、学生への図書貸出や文献のコピーは配送で対応、7 月になり学生の来館利用の再開となりました。この時は可能な限り滞在時間を減らすため来館と利用資料を完全予約制とし、書架をみて自由に本を選ぶことはできませんでしたので、利用者の方は非常に不便であったと思います。



9 月 17 日から一部対面授業が開始となり学生の入構ができるようになってからは、完全予約制の来館ではありますが 1 時間以内で書架への立ち入りと一部閲覧席の利用を再開し、自由に資料を選ぶことが可能となりました。

段階的に利用できる範囲を広げてはいますがこの記事を書いている 10 月時点でもまだ本来のサービスを提供することはできていません。

受けたいサービスを受けることができないという不満のある方も大勢いるかと思いますが、できる限り学修のお手伝いをさせていただきますので、ぜひご利用下さい。

現在の図書館の利用方法は図書館 HP に掲載しています。

ー 日常に溶けこむ名品デザイン ー

わたしの 本棚

突如として家で過ごす「おうち時間」が増えた 2020 年。気軽な外出が難しい日々が続いています。遠出ができない分、近所への買い物を楽しみのひとつになった方も多いのではないのでしょうか。店内に並ぶ定番商品、つい買ってしまうお菓子、思わず目移りしてしまいます。いつもみている日用品のなかに有名デザイナーが手がけた商品があることをご存じですか？身近なものを「デザイン」の視点から紹介する『これ、誰がデザインしたの？』。ちょっとした知識で日常が面白くなるかもしれません。

乳酸菌飲料の定番「ヤクルト」と聞いて、イメージするのは特徴的なあのフォルム。元々ガラス瓶で売られていたヤクルトをプラスチック化するとき、剣持勇率いるデザインチームが作りました。1968 年（昭和 43 年）に発売されて以来、もう 50 年以上も同じ形です。ホテル内装やインテリア設計で有名な剣持の仕事でもっとも一般に普及したヤクルトは、変わらないことで味の信頼や安心感まで生み出します。

私は仕事柄よく鉛筆を使うことが多く、これまで様々なメーカーの鉛筆を使って「三菱ユニ」を愛用しています。1958 年（昭和 33 年）に工業デザイナー秋岡芳夫が手がけました。独特な赤茶色のボディは世界中の鉛筆を集めて被らない色の候補を 160 色も挙げ、すべて軸に塗って決定したこだわりの仕事。妥協せず試してみる姿勢を思い起こさせる鉛筆です。

本編には他にも身近なプロダクトやパッケージにまつわる制作秘話が盛りだくさん。また、続編となる『続・これ、誰がデザインしたの？』では、さらなる名作デザインを掘り下げます。

学内に美術館がある芹沢銈介が手掛けたデザインも紹介されていますよ。

こちらも所蔵しています！

『続・これ、誰がデザインしたの？』

（美術工芸館：佐藤 花菜）



『これ、誰がデザイン
したの？』

渡部千春著
美術出版社

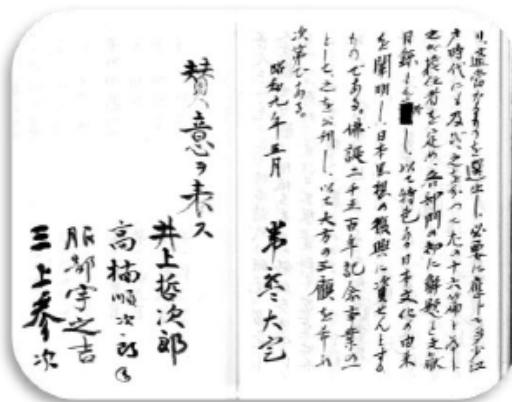
所 在：374.3/ワタ/学関
請求記号：学生閲覧図書

— 常盤大定と『明治佛教全集豫定目録』 —

私のトキメキポイントは、古い資料から現在に繋がるような痕跡を見つけた時である。歴史の中に芽生える一筋の光のような、「光明」とでも言うべき瞬間。あたなの知らない世界、ちょっと

だけご紹介しよう。

『東北福祉大学図書館所蔵和漢書目録』に掲載されている、常盤大定ときわだいでいじょうの自筆本と思われる『明治佛教全集豫定目録』についてである。まず、常盤大定とは明治から昭和前期の中国仏教学者であり真宗大谷派の僧で、宮城県伊具郡の順忍寺に生まれ、後に宮城県の道仁寺の常盤



了然の養子となる。東京帝国大学印度哲学科で教授を務め、『佛性の研究』や『支那佛教史』などの著書も残している。さて、この糸綴じ本の最初には公刊の趣意書が付されている。趣意書には、大定が当時の思想混乱と神道、儒教、仏教の精神思想を形成するための貴重な資料の散逸危機を嘆き、ならば自らが蒐集した資料から適当なものを選び文献の目録と解題を作成し、日本文化の由来の闡明と思想の復興に努めようという高い志が記されている。分野は神仏篇や三教篇など 16 に及び、各篇菊版（ハードカバーの単行本サイズ）700 頁程度を予定し、昭和 9 年 9 月から毎月一篇づつ刊行すると宣言され、これに賛意を表して高楠順次郎、井上哲次郎、服部宇之吉、三上参次という錚々たるメンバーが署名をしており、全集刊行に並々ならぬ熱意を感じるのである。

果たしてこの情熱は結実したのだろうか。答えは NO である。実際には昭和 10 年 2 月に『明治佛教全集』第 8 巻、護法篇のみが刊行されたようである。これは本学図書館にも所蔵があり、全集の序には大定自筆の趣意書とほぼ同じ内容が書かれている。釈尊誕生 2500 年記念事業として始められた全集刊行はなぜ完結しなかったのか全く残念である。ということは、未だ日本文化の由来は行方知れず、思想の復興も道半ばということ！なんとも嘆かわしいことである。

(雑誌係：八巻 千穂)

— 素敵な日々を過ごす、公共図書館とわたし —

図書館 エトセトラ

小学校の頃、宮城野図書館へ自転車を走らせ、お気に入りの畳の部屋を陣取り夏休みの宿題をしたり、大学生の時は卒論の資料収集に、各地の公共図書館を巡ったりしました。近隣の公共図書館から他館の本を取り寄せるサービスがあることを知っていれば、わざわざ遠くの図書館へ交通費をかけ苦労しながら行かなくても良かったのに、と思う反面、色々な図書館を回ることができたのは良い思い出です。

今も週末になると、家の近くにある宮城野図書館へ出かけます。宮城野図書館は、仙台市図書館の一つで陸前原ノ町駅に隣接した「宮城野区文化センター」内に平成24年10月に新築移転しました。子供の頃、好きだった畳の部屋はもうありませんが、料理本やおみくじの解説書、小説、ドラマや映画の原作本だけではなく、映画・ミュージカル、ディズニーやジブリ、クラシックや J-POP などの AV 資料を借りて、日々の暮らしに役立てたり、楽しんだりしています。そこで、コロナ禍の中、自宅で過ごす友人達に、私は本以外にも DVD や CD を図書館で借りて家で楽しんでいる事を話すと、「図書館で AV 資料を無料で借りられるなんて知らなかった、図書館へ行ってみたい!!」と驚かれ、公共図書館ユーザーを増やしています。



もちろん本学の図書館も利用しますが、残念ながら所蔵がない時は、仙台市図書館 HP から所蔵検索をしてみます。利用者カードの ID と PW を持っていれば、ログインした後、図書館へ出向かなくても、気になる資料を予約することができます。

カウンター越しに学生からの問い合わせの本が、本学図書館にないとわかると、仙台市や宮城県の図書館に、該当の本の所蔵を調べ、所蔵があれば公共図書館へ行くように促します。近隣の図書館から遠くにある図書館の所蔵の本を借りられることも付け加えて・・・。

皆さんも新たな発見や出会いを探しに、お住まいの近くの公共図書館へ行って素敵な日々を過ごしてみませんか？

－ 編集後記 －

今号の「としょかんぼう」は、ブックレビューでは福祉心理学科の渡部純夫先生に、わたしの本棚では美術工芸館の佐藤花菜さんに、ご寄稿して頂き誠にありがとうございました。

さて、5月4日は「音楽の日」、10月2日は「美術を楽しむ日」、10月27日は「読書の日」、12月1日は「映画の日」と芸術や文化にまつわる日が結構あるんですね。今年は音楽会や演劇の開催が制限されたり、密になりそうな映画館に足を運べなかったり、芸術や文化に親しむ機会を奪われてしまいましたけど…。音楽であればCD、映画や旅番組であればDVD、美術であれば作品集や解説書、話題の小説やベストセラー本など、それぞれの資料が揃うところ、どこだと思いますか？ その答えはこの「としょかんぼう」を読むとわかります。芸術や文化に触れる機会が減っても、心を豊かに保つ場所は、意外にも身近なところにあります。素敵な場所を見つけたら、私にも教えて下さいね。それでは次号もお楽しみに!! 《五十嵐 智子》

失われし 2020 年。日常が日常ではなくなり、心も身体も「新しい生活様式」に少々辟易している 12 月、さらに「マスク会食!?」推奨ですって。湯船に浮かんだ垢だけをすくい取るようなグロテスクなアイディア、お湯ごと入れ替えるぐらいのダイナミックな発想はないのでしょうか…。

さて、12 月には様々な納めの日があります。12 月 5 日「納めの水天宮」、8 日「納めの薬師」、10 日「納めの金毘羅」、18 日「納めの観音」、21 日「納めの大師」、24 日「納めの地藏」、28 日「納めの不動」（参照『曹洞宗宝暦』）とこんな感じ。「納めの水天宮」は、1 年最後の「水天の縁日」で、縁日とは仏がこの世に縁を持つ「有縁」の日や神仏が世の人々を救うために手を伸ばし縁を結ぶ「結縁の日」を言います。神仏とのご縁が有る日＝縁日、「納めの〇〇」は 1 年最後のそれぞれの縁日となります。「納めのコロナ」ならぬ「治めのコロナ」が、感染症的にも政治的にも達成される日が早く来ることを祈るばかりです。 《八巻 千穂》

東北福祉大学図書館報「としょかんぼう」No. 32 2020 年 12 月
編集・発行 東北福祉大学図書館 〒981-8522 仙台市青葉区国見 1-8-1

TEL: 022-717-3309 FAX: 022-717-3309

E-mail: etsuran@tfu-mail.tfu.ac.jp

<http://www.tfu.ac.jp/libr/>

